

学校全体で取り組む長期実践校 子どもたちの意欲を高める工夫で大きな成果

子どもたちが自ら学級づくりに参画する、新たな学級経営システム「学級力向上プロジェクト」(開発者・早稲田大学教職大学院教授田中博之先生) いじめがない、安心できる学級づくりに向けて、同プロジェクトを実践する学校も増えていきます。今回は8年前に取り組みをスタートさせた福岡市立原西小学校の取り組みをご紹介します。

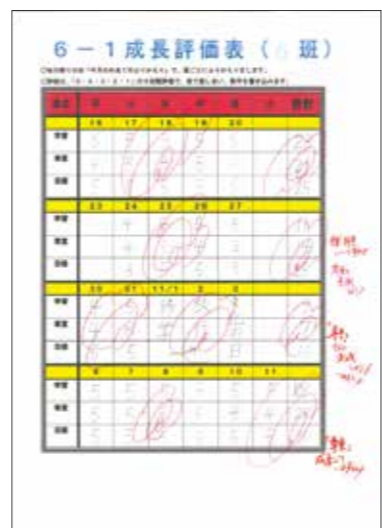
落ち着いた学級環境を目指して

福岡市立原西小学校が学級力向上プロジェクトを導入したのは平成22年度のこと。「学力向上を実現するためには、落ち着いた学級環境が不可欠」という当時の校長の思いが、その背景にあります。当初は「子どもたちが安心して勉強できない、協力し合えない、先生に対する信頼感もない」という状態が続いていたのですが、実践を重ねるうちに、そうした状況も大きく改善。子どもたちの学習に向かう姿勢も、見違えるようになくなりました。

以来、同校での取り組みは7年余に及びます。2年前に同校に赴任



豊田 健一校長先生



子どもたちの日頃の行動管理に活用した「成長評価表」

「1カ月の頑張りを通じて、リーダーチャートが大きくなると、子どもたちの自信が増し、自尊感情も高まります。クラスの課題をみんなで解決したことが、成功体験となるのです」(塩田先生)

さらに、子どもたちはプロジェクトを実践することで、学級の状況や友人たちの様子にも深い関心を寄せるようになるといいます。

「リーダーチャートを示す前に、『今回はどの数値が高いと思う?』と聞いてみると、驚くほど正確に予想します」(塩田先生)

低学年でも実践してみたい

原西小学校では、こうしたクラスでの実践がより活発になるように、教職員を対象とした研修も行っています。今年度は新しく着任した教職員が多いことから、新たな研修として、「職員室力向上プロジェクト」を実施。全教職員を対象に、「あいさつ」「校務分掌」「健康管理」「机上の整理」「助け合い」について、アンケート調査を行い、数値が低かった項目(机上の整理)について、どうしたら数値が上がるのか、課題が解決できるのかを参加者みんなで話し合いました。「皆さん

した豊田健一校長先生は同プロジェクトについて、次のように語ります。

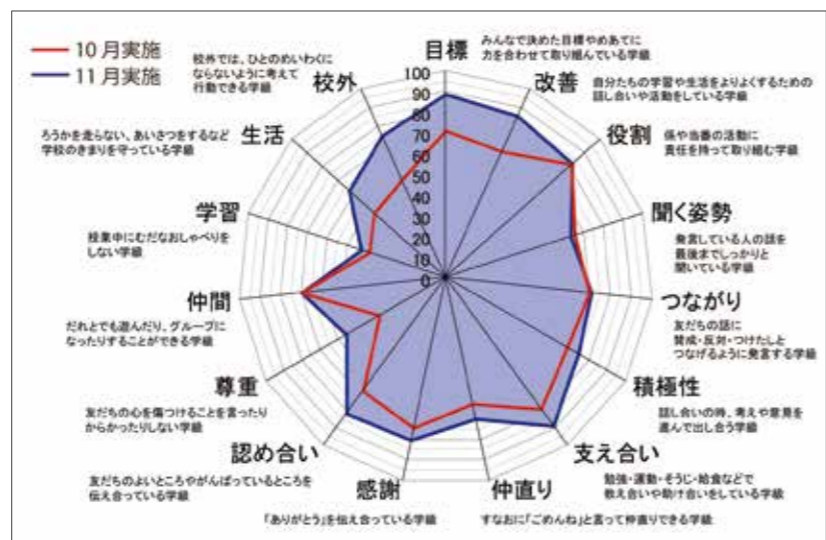
「学級力向上プロジェクトは、子どもたちが主役になって、自分たちで学級づくり、集団づくりを進める取り組み。しかも、具体的な方策がしっかりしているため、実効性も高い。そうしたメリットがあるために、当校では多くの教職員が主体的に取り組んできました。この流れを止めることなく、継続的に進めていくことが大事だと思っています」

活動をマンネリ化させない

継続的な推進に向けて、同校では現在、「学級力向上」を学校として重点的に取り組む学習テーマ(テーマ研究)の1つに位置付け、学校全体で取り組む体制を整えています。その中心にいるのが、テーマ研究主任を務める塩田健吾先生です。学年ごとに配置された推進委員と連携し、同プロジェクトを活用した授業研究の支援に取り組むとともに、受け持ちのクラス(6年生)でも実践を重ねています。

「私が特に留意しているのは、活動をマンネリ化させないこと。毎年同じような取り組みを繰り返している、子どもたちの意欲が減退してしまっています」(塩田先生)

その観点から、塩田先生が昨年度から進めてい



学級力リーダーチャート。修学旅行・学習発表会の前後でアンケートを実施、数値が低かった「目標」「学習」「尊重」の向上に取り組んだ。

意欲的に取り組んでくれました。自分たちで体験すること、プロジェクトの理解を深めてもらえたと思います」(塩田先生)

定期異動により、教職員が入れ替わる中でも、長期にわたって学級力向上プロジェクトを継続してきた原西小学校。学年によっては、はがき新聞を活動に取り入れるなど、各教職員が工夫し、さまざまな実践が行われています。今後の展望を塩田校長先生に聞くと、「これまでは中学年以上を中心にプロジェクトを展開してきましたが、他校の事例などを参考に、低学年でも積極的に実践を重ねていきたいと考えています」と話しました。

るのが、学校行事と併せてプロジェクトを実践することだといいます。「運動会や修学旅行などの行事は、子どもたちにとって大事なイベント。必ずしもクラスの課題と関連していかなくても、行事を一つの目標や節目に位置付けることで、子どもたちのやる気が高まるのです」(塩田先生)



塩田 健吾先生

成功体験が自尊感情の育成につながる

具体的な取り組み期間は、子どもたちの集中具合も考えて、約1カ月間。行事の1カ月前に学級力アンケートを行い、数値が低い項目の改善に向けて、話し合いを実施し、具体的な解決策や行動方針が決まったら、行事までひたすらそれに取り組めます。そして、行事後にもう一度アンケート調査を行い、数値が上がったかどうかをチェックします。

子どもたちのモチベーションを維持するためにも、「帰りの会」を利用して、独自につくった「成長評価表」を基に、班で日々の行動を振り返るほか、タスキングを見計らって、塩田先生自身が適切な声



5年生がプロジェクトの一環として作成したはがき新聞。作成した新聞と友達からのコメント(ほめほめ言葉)でワンセット



職員室力向上プロジェクトで作成されたリーダーチャート(職員室に掲示)。「机上の整理」の数値向上に取り組む。